



施設とひと、地域、社会を笑顔でつなぐ...

2022年3月吉日発行

あゆみだより

No.219



本号の内容

- 所長の語り場
～2021年を振り返って～
～2022年を迎えて～
- 50周年イベント開催!!
- *祝*成人を祝う会
- 夜のバスレク
- ICTスイッチとの出会い
- あゆみの家公式Instagram紹介
- ボランティア募集中!



所長の語り場

～2021年を振り返って～

新型コロナウイルス感染症につきま
しては、ワクチン接種等の感染防止対
策の効果により、一定の落ち着きを見
せたものの、オミクロン株の感染拡大
により、油断できない状況は続いてお
り、一刻も早く収束することをただだ
祈っております。

あゆみの家は今年度職種・職域を越
えた更なる連携を図りながら、①新し
い生活様式に沿った個別活動の実践
と創出 ②第三期指定管理受託に向
けての行動計画の作成 ③継続的な
感染予防の徹底を目標に垣根のない
チーム作りを目指して実行して参り
ました。

『事業計画総括』

—ICTの活用と課題

繰り返される感染症の波の影響で
計画的な事業の展開が混乱する中で
も、ニューノーマルな形としてSNSで
の発信、オンラインでの入所式から始
まり、保護者会、他施設との連携行事
とあゆみの家から発信して繋がって
いく場を作り続けて参りました。ICTを
活用しプログラム活動の提供にも活か
しております。一方で実践を通す中、双
方向のつながり手段であるオンライン
配信も、情報を発信する一方向のコ
ミュニケーションに陥ってしまう部分、
撮影への意識が集中するあまり、撮
影されていない利用者、画面に映ら
ない利用者の活動との連動がうまく
いかず温度差が生まれてしまう等課
題を残しました。加えて、施設側の想
いとのギャップとしてICTという言葉と
具体的な活動が繋がらない、「何が
どのように行われているのかわから
ない」といった、基本的な課題も見て
参りました。上記の課題への気づきは
オンラインではなく、対面（保護者会）

での意見交換を通して気づかされた
点であり、ハイブリッドの重要性を実
感した瞬間でもありました。

—あるべき『個別活動の姿』とは

個別活動の創出と実践においては、
活動の制約がある中、内にためた時
間を活動に充てるという目標を立て実
践して参りました。ご利用者の活動量
が多い方はその強みを更に活かせる
取り組みや、好きな活動を見つける取
り組み、活動量が低い方に関しては、
わずかな変化への着目や、全体活動
への参加の中を通して見つけていく
取り組みとなりました。課題としては活
動への意志や意欲が読み取りづらく
職員主導の取り組みになってしまっ
たり、全体活動への『参加』が目的に置
き換わってしまう傾向が見られたり
と、担当する支援員の経験含む力量等
に委ねられる結果も少なからずあり、
公平なサービスを実施していくうえで
課題として認識しております。

—感染症対策と向き合う中で

感染症対策においては、押し寄せる
感染の波に対して、正確な情報を常
にアップグレードし正しく恐れながら
事業を運営していく事の難しさを痛感
した1年でありました。今年を経験し
管理、支援、医務と職種を越えてあら
ためて学びの場を持ちました。困難な
状況を乗り越えていく過程で保健所
からの指導、アドバイスを基に感染症
発生時の『有事モード』を作成いたし
ました。机上で練った事業継続計画
から、公的施設として求められる事業
継続より、実践的な視点を取り入れた
対策案を作ることに繋がったことは
大きな成果でありました。刻々と変わ
る情報、一方で抑えなければならぬ
普遍的な対応、これらをしっかり精査
して捉えなくてはなりません。

～2022年を迎えて～

2022年は昨年の事業計画内容を
さらに深め、充実していく年であると
感じています。

—「100年歩み続けるために 求められること」

SNS、あゆみだより等でのあゆみ全
体を通したICT含む新しい生活様式
への取り組みの『見える化』、この手
段の拡大を実施して参ります。あわせ
て施設側だけの振り返りで終わら
ない、情報を受け取る側（ご家族、他
事業所）からのフィードバックの場を
作って参ります。

個別活動の充実に向けては今年度、
「100年あゆみ続ける施設」への意
気込みを込めて、結成した『百歩会』
において活動のオーダーメイド化、所
属グループを越えた個別活動の実
践、具体的なアクションプランの作成
を進めているところです。

衛生管理においては外部機関（東
京都看護協会）を入れての再マニ
ュアル作り、定期モニタリングを実施し、
継続可能な衛生管理体制の構築を
進めていきます。

—『望ましい施設』を探り続け る為

上記の取り組みの原動力として必要
なのはやはり人材（人財）であります。
イキイキ働き続ける場を目指し、一年
を通し職員たちとの対話を進めて行
く中で、「ご利用者のよりよい生活・施
設を考えていく」という事は共通して
いる事を強く感じました。一方で利用
者のその人らしい生活の実現、個を深
め、個を広げていく支援、又は施設運
営の実践を行っていく中で、より知り、
深める過程の中だからこそ生まれる
熱意を、広く仲間とありのまま共有し

たい、近づきたいという責任感も強く
なっています。だからこそ仲間の異
なる考えや価値観、取り組みの姿勢、
支援の在り方や働き方に対する葛
藤が生じていきます。それにどのよう
に対応していくのか？どのように向き合
うのか？その「手立て」が分からない、
知らないがために、苦しさ、もやもやに
つながっている。という話をよく耳にし
ました。

—キーワードは「我が事、丸ごと」

SDGsや地域共生社会の実現が目
指されています。キーワードは「我が
事・丸ごと」。他人事を、我が事として
捉えること、縦割りのサービスに止まら
ず、丸ごとの支援を展開していく。この
事は我々福祉に関わる者たちは認識
していなくてはならず、福祉に限ら
ず持続可能な社会形成には必要な視
点であり、その社会の一要員として習

慣として持ち合わせていく必要がある
のではと思っております。まずは一番
身近なトピックスとして、支援を通して
生まれた葛藤に対し、ご利用者はどん
な考え？ご家族の想いは？自分はどう
だろう？共に働く仲間？あゆみの家
に集う者たちが、このような問いを持
ち続け、他人事をちょっと我が事と捉
えてみる。自らを成長させ、他者との
垣根を越えて『関係力』を強化してい
くことが求められていきます。

—『対話』を続けていく習慣を

『答え』は無い、支援の難しさがある
からこそ、常に対話、議論を続けること
が何より声なき声を拾う尊重の形な
のではないかなと考えております。
2022年はこの対話の『手立て』を
利用者支援の充実とあわせて進めて
いきたいと考えております。

—『パイオニア精神』を忘れずに
2021年11月をもって、あゆみの家は
50周年を迎えました。過去の施設の
足跡に触れる中で前例が無い中で新
しいものを作り出してきた「パイオニア
精神」があゆみのアイデンティティで
あることを実感しているところです。今
年度は来期5カ年の指定管理期間選
定時期となっており、無事、指定管理
として選定を受け、来期からも事業実
施を継続して行えることが決定しまし
た。新しい50年に向けて選ばれたこと
への感謝と担う責務をしっかりと持ち、
職員一丸となって歩んで参ります。本
年もよろしくお願いいたします。

（中村 拓）



50周年おめでとう

あゆみの家は2021年11月20日で50周年を迎えました。11月17日～19日の3日間にわたり、お祝いイベントを実施しました。お祝いに駆けつけてくれた皆さん、ありがとうございました！楽しい当日の様子は、次のページで！！

11/17 大道芸人パーティ

大道芸人（マジック、ダンス、ジャグリング）によるパフォーマンス
間近で見えてビックリ！ワクワクとドキドキが止まらない

中庭
大壁画
プロジェクト



記念Tシャツ
製作

11/18 50周年記念航空写真撮影

あゆみにドローン出現！中庭にて吉住区長とお祝いセレモニー
奏さんによる和太鼓演奏も、身体と心に響き渡りました

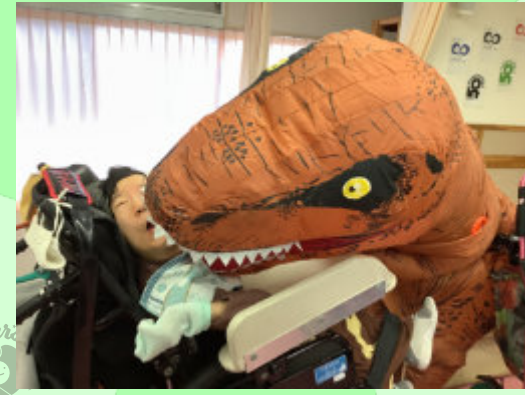
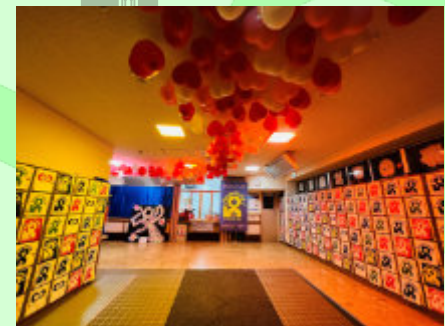
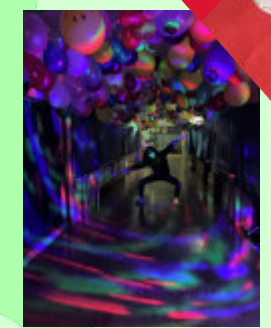
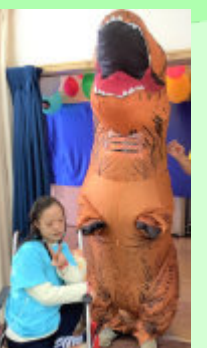
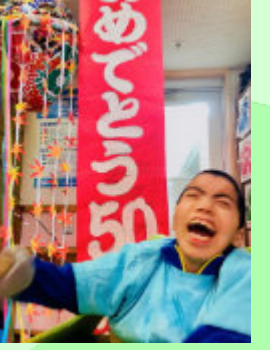
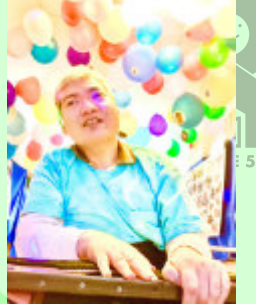
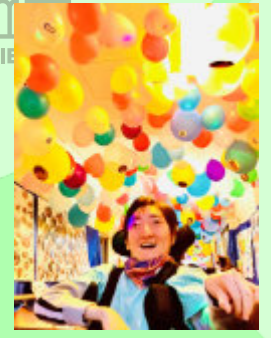


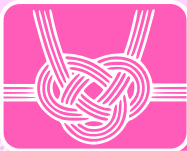
11/19 ピトレ弦楽奏団 あゆみバンド

見たことない、聞いたことのない壮大な響きと、職員によるバンド演奏が大盛り上がり



おゆい 50周年





*祝*成人を祝う会

今年も新成人の誕生です。
当日は、会場参加とオンライン参加型のハイブリッド開催!沢山の祝辞を頂きました。



私も
大人の仲間入り♡
ますます
魅力的になるわよ?

おめでとう
吉瀬歩香さん

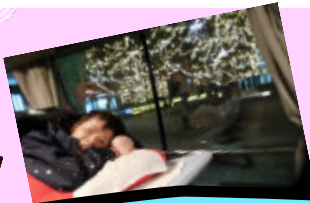


夜月のバスレク

今年も少人数に分かれて感染予防対策を取りながら、「夜のバスレク」行事を行いました。

シブパンゴールドの
イルミネーションが
ステキだ:たよ

表参道
に行って来ました





ICT スイッチとの出会い

これまでのICT機器の中でもトビーコミュニケーターを使用した視線入力に挑戦し、利用者の特徴に合わせて画面の角度を変えたり、興味のあるような二択のシートを作成したりするなど試行錯誤してきました。徐々に慣れてきた利用者も数名いる一方、身体に緊張が入ってしまう、不随意運動で上手く視線を感知してくれないという方も。本人としては一生懸命画面を見ようとしているのですが、もっと簡単に意思が伝えられる手段は無いが、非常にもどかしい毎日を過ごしていました。



そんな悩みを講師の先生に相談し、提案して頂いたのがスイッチ操作！
iPadにiPadタッチャーをつけ、そこにスイッチを接続し、スイッチを動かすとiPadのタッチ操作が出来るというものです。(下図参照)

iPadの操作は、ピンポイントで一部を押す、左右上下に滑らかに動かすなど、指の繊細な動きが求められますが、スイッチなら大丈夫。スイッチにはボタン式のもの、微細な動きをとらえる長い棒状のものなど様々な形があり、利用者の状態にあったものを選ぶことでコントロールしやすくなります。iPadをテレビやプロジェクターなどにミラーリングすれば、大画面でiPadの操作を行うことも出来るんです！



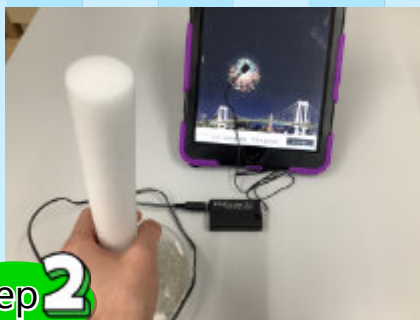
シリウスグループでは、iPadの花火を打ち上げるアプリをプロジェクターで天井に映し出し、利用者がスイッチを操作して花火を打ち上げ、その様子を他利用者がリラックスして横になりながら楽しむ、ということもしました。大画面での花火は迫力満点です！現在はゲームなどのアプリで、楽しみながらスイッチ操作に慣れて行こうという段階です。

このスイッチとの出会いを大切に、何かを選択する、会話をする、などの意思決定支援や操作の向上に繋がることを信じて取り組みを続けていきます。



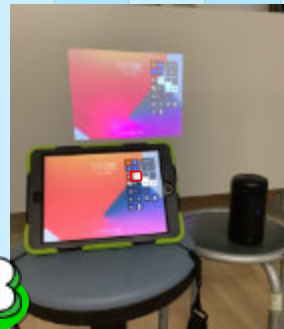
step 1

iPadにiPadタッチャーをつける



step 2

iPadタッチャーにスイッチを接続
ほんの少し触るだけで反応！



step 3

テレビやプロジェクターにミラーリング
大画面でiPad操作が可能!!

一昨年の10月からICT講師として定期的にお世話になっている寺田真智子講師から、『あゆみの家に期待すること』として下記のコメントをいただきました。先生、私たちも頑張りますね!!



ICT 寺田真智子講師

あゆみの家は先駆的な施設です。支援員さん達がすごく前向きなところがいいですね。今後は所内各グループに”ICTアドバイザー”なる人材を育成し、視線入力だけに特化せず、様々なコミュニケーションツールやスイッチの種類などをひとつおり覚えて、利用者さんごとに使い分け、みんなにアドバイスができるぐらいの環境を目指していきたいですね!



オンラインボランティア募集



ボランティア
登録フォーム

現在、新型コロナウイルス感染症予防対策として、来所いただく事業やボランティア活動の実施が中止となっており、オンラインでの事業開催に取り組んでいます。それに伴い、歌や演奏、パフォーマンスなどご自身の特技を活かし、オンラインでボランティア活動をしていただける方を募集しております。ご興味ある方やご質問のある方は、ぜひお気軽にあゆみの家までお問い合わせいただくか、左のQRコードからもボランティア登録・質問を受け付けています。



Instagram



Facebook

〒161-0031 新宿区立あゆみの家:新宿区西落合1-30-10 TEL:03-3953-1230

運営法人 社会福祉法人 新宿区障害者福祉協会